

苺品質向上対策について

令和7年1月
アグリ技研（株）

「暖候期品質対策」について

本年も春は早くなり温度も高くなりそうな予報です。

（肥料施肥について）

1. 「カリ」肥料の施肥

目的は玉肥大・日持ち対策

「カリっと」を7～10日置きに1kgを灌水処理

又は「ふとる」の場合は5～7日置きに5kgを灌水処理

徒長防止・玉肥大相乗効果には、「PKゴー」300g灌水処理

PKゴーの葉面散布の場合は2000倍

2. 「カルシウム」の施肥

目的は果実の硬果・日持ち対策

カル元気（カルシウム成分10%）を5～7日置きに3kgを灌水処理

有機カルトップの（成分26%）は7～10日置きに500～1kgを灌水処理

葉面散布の場合は、1,000倍で5日置き

◎果実の硬化対策には、赤く熟れてからの施肥でなく開花期から定期的に施肥をします。

3. 「発根・根の充実維持」の施肥

目的はリンサン・カルシウム・微量元素の吸収促進・根の活性対策

アミクエを7～10日置きに5～10kgを灌注処理

（栽培管理について）

芯葉の徒長や薄葉は、同化作用の低下となり果実の肥大や品質に影響しますので午前中のやや低めの温度管理や高温多湿（多雨）時はハウスを開けての管理を行いましょう。

◎「高温期品質対策は、施肥と合わせて適正な温度管理や電照調整を行います」